

新しいタイプの学校の検証及び充実について

～連携型中高一貫教育校～

1．検証の目的

平成13年度に那賀高校(那賀地域)と阿波西高校(阿波・市場地域)に導入された連携型中高一貫教育の教育活動等について検証を行い、今後の取組の充実に生かしていくことを目的とする。

2．検証の概要

(1)視点

[] 連携型中高一貫教育校が、新しい中等教育の選択肢として受け入れられているか。

[] 連携型中高一貫教育校として、特色を生かした学校づくりが進められているか。

(2)方法

生徒・教職員を対象としたアンケートの結果、学校へのヒアリング等をもとに検証する。

3．検証の結果

(1)総合的な評価

連携型中高一貫教育を導入している2校では、地域に開かれた高校として地域との連携も深めながら、TTによる中高教員の相互交流、学校行事や部活動での中学生と高校生の交流等により連携中学校とのつながりを強めることで、連携型中高一貫教育校としてのメリットを生かし、特色ある学校づくりを進めている。

こうした取組に対し、中高教員のTTによるきめ細かな学習指導や高校生との交流等、連携型中高一貫教育のメリットに対する連携中学校の生徒の理解は進んでいる。また、高校生も、同じ中学校から入学した生徒が多いことによる安心感、TTによる丁寧な学習指導、中学校教員との触れ合い等、他の高校にはない特色を中高一貫教育のメリットとして満足している。

一方、中高一貫教育校として取り組むべき課題も明らかになった。中学校と高校の設置場所が離れていることから、中高の教職員の意思疎通や中学生と高校生の交流を通して連携を深めるための方策をさらに工夫するとともに、そうした連携を通して、6年間を通した効果的な教育指導のあり方をさらに研究・改善する必要がある。

今後、那賀高校と阿波西高校は、こうした課題について、それぞれの地域の特色を生かし、学校の実情に即して工夫・改善を進めることで、魅力ある中高一貫教育校となるよう充実させていく必要がある。

(2)各視点からの評価

〔視点 〕: 連携型中高一貫教育校が新しい中等教育の選択肢として受け入れられているか。

高校教職員は、連携型中高一貫教育を支持し、高校生も高校での生活に満足している。連携中学校の生徒は、連携型中高一貫教育の特長を理解しているが、他の普通科高校への進学者は増加傾向にあり、さらに連携を深め魅力ある学校づくりを進める必要がある。

高校生の72.1%が「入学して良かった」と、現在の高校生活に満足している。そして、「中高一貫教育校のよい点」として、「知っている人が多く入学しているので安心できる」「TTで授業をしたりするので、分からない所などを聞ける」「中学校の先生にも指導してもらえるので、違った考えが得られる」等を挙げ、高校生が、他の高校にはない連携型中高一貫教育校の特色を実感していることがうかがわれる。

〔P10 資料2 問1(2), P12 資料2 問5(1)〕

また、高校教職員も「連携型中高一貫教育は生徒にとって良い制度だ」と思っているのは81.0%と高い割合を示しており、連携型中高一貫教育が、高校生や高校教職員から高い支持を得ていると考えられる。〔P15 資料2 問10〕

一方、連携中学校3年生は、「中高一貫教育のよい点」として、「高校の先生や高校生から高校の様子を教えてもらえる」「TTで丁寧な指導が受けられる」「同じ中学校からたくさん進学するので安心」「受検のことを気にせずに勉強できる」などを挙げており、連携型中高一貫教育の特長は連携中学校の生徒にも理解されている。

〔P13 資料2 問7(1)〕

しかしながら、高校では連携型入学者選抜による入学生はほぼ確保できているものの、平成16年度以降、一般入試により入学する生徒は減少しており、連携中学校生徒の進路状況を見てみると、他の普通科高校への進学傾向が強まっている。〔P7 資料1 1(1), (2)〕

連携中学校から入学する生徒は、面接と作文で生徒を総合的に判定してくれること、また、そのためゆとりをもって受検できることを、連携型入学者選抜のメリットと捉えている。反面、学力検査が無いことから学習意欲が充分高まらないことに不安も感じており、生徒が継続的に意欲を持って学習に取り組めるよう支援する工夫が望まれる。

高校生は、連携型中高一貫教育の高校を選択した理由として、「通学に便利だから」「自分の学力にあっているから」に次いで、連携型入学者選抜で行われている「入試が面接と作文だから」を3番目に挙げている。〔P10 資料2 問1(1)〕

さらに、連携中学校から入学した高校生に、作文と面接による連携型入学者選抜について、その「よい点」を尋ねたところ、「作文・面接(学力以外)で自分を表現できる」「学力だけで判断せず、その人の個性、人柄をみることができる」「自分のペースで勉強でき、ゆとりを持って受検できる」という回答が多く、連携中学校が

ら入学する生徒は、連携型入学者選抜について、面接と作文により生徒を総合的に判定するところやそのためゆとりを持って受検できるところをメリットと捉えている。〔P12 資料2 問4(1)〕

一方、作文と面接による入学者選抜の「よくない点」として、「自分の学力がわからない」「目標が持てずに勉強しなくなる」等、学習意欲が十分に高まらないとする意見も見られた。連携する高校・中学校には、中学生が連携型中高一貫教育の趣旨をより深く理解し、継続的に意欲を持って学習に取り組めるよう支援する工夫が望まれる。〔P12 資料2 問4(2)〕

〔視点 〕: 連携型中高一貫教育校として、特色を生かした学校づくりが進められているか。

TTによる中高教員の相互交流は、連携型中高一貫教育の中心的取組として、生徒からは丁寧できめ細かな指導が評価されているが、さらに生徒と教職員の交流が深まるよう工夫・充実が望まれる。

TTによる中高教員の相互交流は、連携型中高一貫教育における中心的な取組として位置づけられている。両校では、連携する中学校数により違いはあるものの、中学校と高校の教員を交流し、中学校と高校で中高教員によるTTを積極的に行っている。〔P8~9 資料1 2(2)〕

また、生徒のアンケート結果でも、「中高一貫教育のよい点」として、中学生・高校生とも「TTで丁寧な指導が受けられる」「TTで授業をしたりするので、分からない所などを聞ける」を挙げており、中高教員のTTによる丁寧できめ細かな指導を連携型中高一貫教育のメリットとして評価している。〔P12 資料2 問5(1), P13 資料2 問7(1)〕

しかしながら、異なった校種の教員との関わりについては、中学3年生で「高校の先生からも話を聞いたり、教えてもらうことができる」とする割合が58.6%、高校1年生では「中学校の先生からも話を聞いたり、教えてもらうことができる」と答えた割合は43.7%と、関わりが持てているという実感は充分には感じられていない。〔P11 資料2 問3(4), P13 資料2 問6(2)〕

連携型中高一貫教育では、高校と中学校が離れ、時間的にも制約されている。地域によっては連携する中学校と高校が50km以上も離れており、教職員・生徒がさらに深く関わりを持てるために、地域の実情を踏まえた工夫が必要である。

高校では、生徒の多様な希望に対応した進路指導が進められており、今後も生徒の望ましい職業観・勤労観を育て、個々の能力・適性や興味・関心に応じた進路選択できるよう、さらに中学校と連携を深めることが望まれる。

高校生の進路希望の状況は、両校とも、大学や短大、専門学校等への進学希望者と就職希望者がほぼ同じ割合おり、普通科高校としては生徒の進路希望は多様である。

〔P11 資料2 問2〕

こうしたことから、高校では、生徒の多様なニーズに少しでも対応できるようコース制を導入し、進路決定に向けて学力の向上に努めつつ、各種資格試験等も積極的に取り入れ、将来の進路につなげるよう取り組んできた。

こうした取組について、85.7%の教職員は「生徒に自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えさせている」と高く評価している。また、「自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えることができる」と答えた高校生も60.9%と、生徒からも一定の評価を得る結果となった。〔P11 資料2 問3(1), P14 資料2 問8(2)〕

今後も、連携する高校と中学校は、6年間を通して生徒の成長を支援できるという中高一貫教育のメリットを生かし、生徒が望ましい職業観・勤労観を持ち、個々の能力・適性や興味・関心に応じた進路選択ができるよう、キャリア教育の取組や進路希望の的確な把握等、さらに連携を深めることが望まれる。

教職員は、中学生・高校生の交流や地域との連携を計画的に進めていると考えているが、中学生・高校生は互いの交流が充分ではないと感じており、中学生・高校生の交流や地域との連携のあり方について、さらに工夫・充実させる必要がある。

高校では、体育祭や文化祭への連携中学校生徒の招待や作品の相互出品、生徒会や部活動での交流を深めてきた。また、広報紙の連携中学校や地域への配付、文化祭への地域住民の招待など地域に開かれた学校として地域との連携を進めている。

〔P9 資料1 2(3), (4)〕

教職員のアンケートでも、「中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供している」とする割合が85.7%。「地域と連携して、その教育力を活用した教育を行っている」とした割合が81.0%と、自己評価は高い。また、「中高一貫教育校として重要と思われるもの」として、「中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供する」が2番目に多く、教職員は中学生と高校生の交流を重視している。〔P14 資料2 問8(3), (4), P15 資料2 問9〕

一方、中学3年生のアンケート結果では、中学生と高校生の交流について、「高校生とたくさん交流ができる」とする中学生は33.4%、高校生も「中学生とたくさん交流できる」と答えた割合は34.7%に止まり、中学生・高校生とも互いの交流に満足していないことが読み取れる。また、「あなたの学校の中高一貫教育として改善して欲しいところはどのような点ですか」という問いにも、中学生・高校生とも、「中学生と高校生の交流を増やして欲しい」という回答が多く見られた。〔P11 資料2 問3(3), P12 資料2 問5(2), P13 資料2 問6(1), 問7(2)〕

さらに、地域との連携についても、高校生のアンケート結果では「地域の人たちと一緒に学習や行事を行うことができる」と答えた割合が47.5%と、教職員の取組の評価に比べて低い。〔P11 資料2 問3(2)〕

連携型中高一貫教育を充実するため、中学生と高校生の交流や地域との連携のあり方についてさらに工夫し、連携を深める必要がある。

教職員は、6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を進めるため、これまでの組織体制をさらに活性化し、互いの意思疎通が一層図れるよう工夫・改善する必要がある。

連携中学校と高校では、6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を進めるため、中高教職員を中心に連携組織を作り、互いの意思疎通を図るよう努めてきた。〔P8 資料1 2(1)〕

教職員のアンケート結果では、「中学校教員と高校の教員の意思疎通を図っている」とする教職員は69.1%であり、「中高一貫教育校として重要と思われるもの」として、「中学校の教員と高校教員の意思疎通を図る」ことが最も多く、教職員が中高教職員の意思疎通を図ることを重視していると言える。〔P14 資料2 問8(5), P15 資料2 問9〕

しかしながら、現在の取組について、「6年間を通じた計画的・継続的な教育指導をしている」とする教職員は54.7%に止まっており、中高教職員の連携が計画的・継続的な指導に十分に生かされていないと考えられる。〔P14 資料2 問8(1)〕

教職員は、連携型中高一貫教育を充実させるため、これまでの組織体制をさらに活性化し、互いの意思疎通が一層図り、計画的・継続的な教育に生かされるよう工夫・改善する必要がある。

4. 各校の充実策

これまでの検証結果を踏まえ、連携型中高一貫教育が生徒にとってさらに魅力ある進路となるように、各校の充実策についてまとめた。

【那賀高校】

(1) 中高連携を生かした進路指導の改善

連携中学校での進路学習に、高校教員・高校生が積極的に協力するとともに、那賀高校のガイダンスを工夫・改善する。

連携中学校の生徒の成長を継続的に支援するため、中高教職員が、個々の生徒の発達段階における指導状況を伝達するシステムを強化する。

(2) 交流授業の改善・充実と系統的な学習内容・効率的な指導方法の研究

中高合同による授業研究会の充実を図り、中高の学習内容や指導方法について相互理解を深め、交流授業の改善に努める。

6年間の計画的・継続的な指導を展開するため、総合的な学習の時間等において系統的なテーマ設定等を工夫し、カリキュラムの連携に努める。

(3) 中学生と高校生の交流の活性化と地域に開かれた学校運営の工夫

中高合同による各種検定や学校行事等への参加を積極的に勧誘することにより、中学生と高校生の交流の活性化に努める。

地元ケーブルテレビの活用や地域住民参加の行事の開催等により、地域に開かれた学校として、地域との結びつきを深めるよう工夫する。

(4) 連携組織活動の活性化と教育重点項目の見直し

中高教職員の意見交換がさら活発になるよう那賀地域中高一貫教育研究委員会等

の連携組織の運営方法等をさらに工夫し，中高連携の強化に努める。

教育重点項目を中高一貫教育としての視点から見直すとともに，中高教職員が互いの取組状況等について，定期的・積極的に意見交換に努める。

【阿波西高校】

(1) 中高連携を生かした進路指導の充実

中学1年生から連携型中高一貫教育の趣旨や特長について理解を深めるよう，連携中学校の進路学習等で高校教員や高校生が積極的に協力するとともに，中高一貫教育進路説明会でのガイダンスを工夫・改善し，進学意欲を喚起するよう努める。

連携中学校からの入学生に対する事前指導「ウォームアップガイダンス」を，中高教員による学習課題の改善や進路講話等の指導方法の工夫により，さらに充実するよう努める。

(2) 交流授業での指導方法等の連携や6年間の学習内容に系統性を持たせる研究

中高教員で構成する教科研究部会において，6年間を通じた継続的・効果的な指導方法について研究を深め，研究成果を交流授業や高校での授業改善に活用する。

6年間の計画的・継続的な指導を展開するため，総合的な学習の時間等において系統的なテーマ設定等を工夫し，カリキュラムの連携に努める。

(3) 中学生と高校生の交流の活性化と地域に開かれた学校づくりの促進

中学生体験入学や文化祭での中高の生徒会による共同企画等の機会を利用し，中学生と高校生の交流が活発になるよう努める。

地元ケーブルテレビを活用し，中高連携の活動の様子等を地域に積極的に発信し，地域に開かれた学校づくりに努める。

(4) 中高連携組織の活性化と中高教職員の交流の推進

中高連携組織（教科研究・生徒指導・進路指導・人権教育・特別活動の各部会）の活動内容や運営方法等を工夫し，中高教職員の意見交換の場を積極的に設け，相互理解を深める。

研究授業，公開授業，学校行事等の機会を捉え，中高教職員全体の相互交流を積極的に推進する。

資料1

1. 生徒の状況

(1) 連携型入学者選抜を利用した入学生の割合

入学年度		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	5年間の平均
那賀高校	連携中学校卒業生数	116	109	110	113	101	106	93	104.8
	全募集定員	88	84	84	80	80	80	80	80.8
	合格者数	34	41	46	43	40	46	41	43.2
	定員に対する合格者割合	38.6%	48.8%	54.8%	53.8%	50.0%	57.5%	51.3%	53.5%
阿波西高校	連携中学校卒業生数	319	256	264	243	239	251	244	248.2
	全募集定員	140	130	130	110	105	100	100	109.0
	合格者数	56	68	58	72	53	65	61	61.8
	定員に対する合格者割合	40.0%	52.3%	44.6%	65.5%	50.5%	65.0%	61.0%	57.3%

(2) 連携中学校生徒の学科別進学状況

高校入学年度	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		5年間の平均	
	人数	(%)										
那賀高校	58	52.7	57	50.4	52	51.5	49	46.2	41	44.1	51.4	49.0
那賀以外の普通科	18	16.4	23	20.4	29	28.7	26	24.5	27	29.0	24.6	23.8
専門学科他	34	30.9	33	29.2	20	19.8	31	29.2	25	26.9	28.6	27.2
計(卒業生数)	110		113		101		106		93		104.6	

高校入学年度	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		5年間の平均	
	人数	(%)										
阿波西高校	106	40.2	94	38.7	70	29.3	83	33.1	69	28.4	84.4	34.0
阿波西以外の普通科	109	41.3	97	39.9	107	44.8	120	47.8	122	50.2	111	44.8
専門学科他	49	18.6	52	21.4	62	25.9	48	19.1	52	21.4	52.6	21.2
計(卒業生数)	264		243		239		251		243		248	

2 . 中高一貫教育としての連携状況

(1)中高連携の研究組織と活動状況（平成18年度）

【那賀高校】

那賀地域中高一貫教育研究委員会（年間3回）

専門委員会

教務・生徒指導・進路指導・特別活動・人権教育の5専門委員会で構成

教務委員会（年間3回）・・・中高TTや研究授業等の計画，中高TTの評価

生徒指導委員会（年間4回）・・・街頭補導や防犯研修等の計画・実施

進路指導委員会（年間2回）・・・中高一貫学校説明会・体験入学の実施

特別活動委員会（年間2回）・・・学校行事・部活動・生徒会活動の交流の企画

人権教育委員会（年間1回）・・・人権学習授業研究会の実施

教務委員会では，連携中学校を会場に中高TTの授業研究会（年間4回）を実施

人権教育委員会では，高校を会場に各学年1回（年間3回）人権学習の授業研究会を実施

【阿波西高校】

阿波・市場地域中高一貫教育改善充実委員会（年間2回）

中高一貫教育代表者会（年間5回）・・・中高連携に関する企画・計画等

連携三校担当者会（年間3回）・・・中高一貫教育代表者会の事前協議等

各種部会

教科研究部会（年間1回）・・・教科（国・社・数・理・英）別に授業研究会を実施

進路指導部会（年間1回）・・・進路状況の説明など

生徒指導部会（年間1回）・・・生徒指導に関する各学校の状況報告

人権教育部会（年間1回）・・・人権教育研究授業の交流計画，文化祭の人権劇について

特別活動部会（年間1回）・・・部活動の交流，文化祭の交流展の実施，人権劇鑑賞の計画

(2)交流授業の実施状況（平成18年度）

【那賀高校】

高校教員8名による連携中学校4校での交流授業

担当学年・・・3年生を中心に全学年を担当

担当教科・・・英語・数学・理科・体育・書写

実施日数・・・年間延べ277日実施

連携中学校4校の教員8名による高校での交流授業

担当学年・・・1・2年生を中心に全学年を担当

担当教科・・・国語総合・古典・現代社会・数学・数学A・理科A・体育・家庭基礎

実施日数・・・年間延べ170日実施

【阿波西高校】

高校教員 3 名による連携中学校 2 校での交流授業

担当学年・・・3 年生（各教科週 1 単位時間を 2 連携中学校で担当）

担当教科・・・選択教科英語・選択教科数学・選択教科体育

実施日数・・・年間延べ 90 日実施

連携中学校 2 校 4 名の教員による高校での交流授業

担当学年・・・1 年生（各教科週 1 単位時間を担当）・2 年生（週 2 単位時間を担当）

担当教科・・・1 年生（数学 A・英語 ），2 年生（生物）

実施日数・・・年間延べ 48 日実施

(3)部活動に関する連携（平成 18 年度）

【那賀高校】

野球・卓球・バドミントン・剣道・バレーボールの各運動部で合同練習会を実施

【阿波西高校】

音楽部で中高合同演奏会を実施

卓球・バレーボール・バスケットボール・剣道の各運動部で合同練習会を実施

(4)その他の連携状況

【那賀高校】

学校行事での連携

体育祭・文化祭への連携中学校生徒・地域住民の招待や文化祭での作品の相互出品による交流

人権学習公開研究授業による中高教職員の交流

広報紙「せせらぎ新聞」の配付・・・那賀町各戸に配付

【阿波西高校】

学校行事での連携・・・文化祭での人権劇鑑賞への招待や作品の相互出品による交流

連携型入学者選抜合格者への対応・・・ウォームアップガイダンス

課題テキストを配付し，基礎学力の充実を図るために，高校で 3 回ガイダンスを実施

広報紙「A I A だより」の配付・・・連携中学校生徒へ配付

資料2

連携型中高一貫教育アンケート結果

調査対象及び調査時期

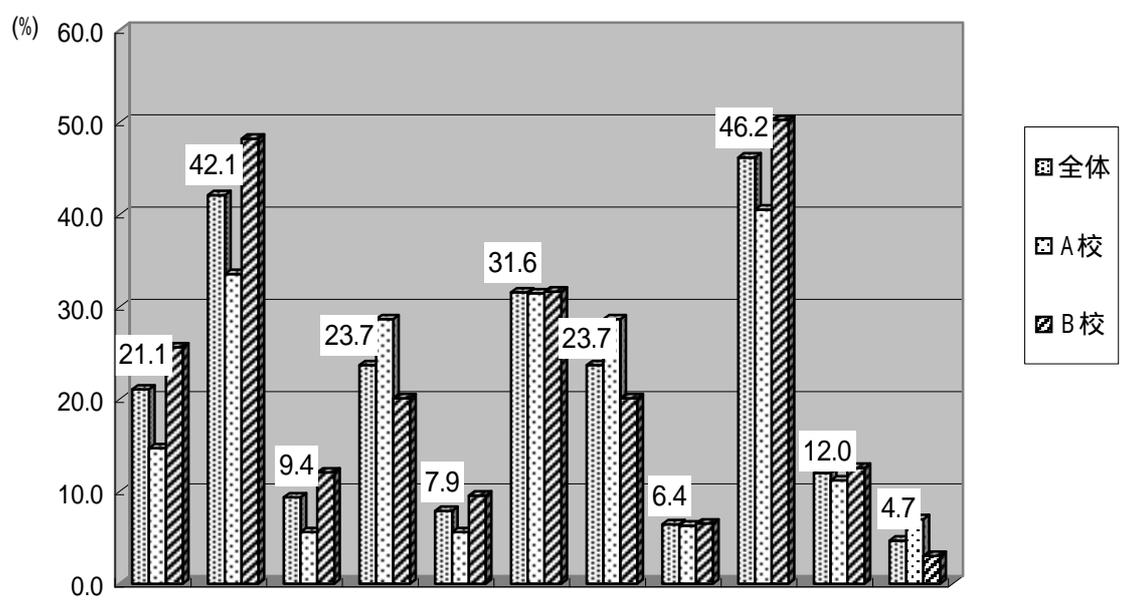
	教職員	中学3年	高校1年	高校3年
那賀高等学校	16	-	70	73
連携中学校	-	89	-	-
阿波西高等学校	26	-	98	102
連携中学校	-	219	-	-
調査時期	H18.10	H18.12	H18.10	H18.12

< 高校生対象 >

問1 この学校への入学についてお尋ねします。

(1) あなたがこの学校を選んだ理由のうち、よくあてはまるものを3つ以内選んでください。

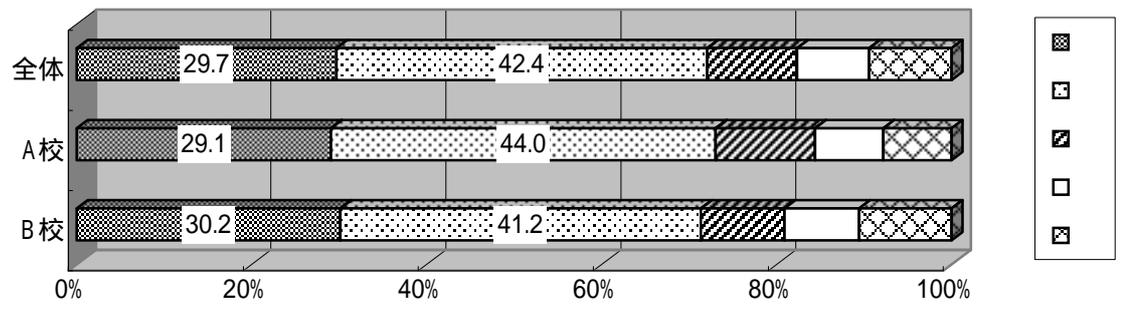
- | | |
|---------------------|---------------|
| ゆとりをもって学習できると思うから | 保護者や先生がすすめたから |
| 自分の学力にあっているから | 友人が希望していたから |
| 自分のやりたい勉強ができると思うから | 通学に便利だから |
| 自分のやりたい部活動ができると思うから | 特に理由はない |
| 進学・就職に有利だから | その他 |
| 入試が作文と面接だから | |



調査対象生徒数に対する選択数の割合で表示

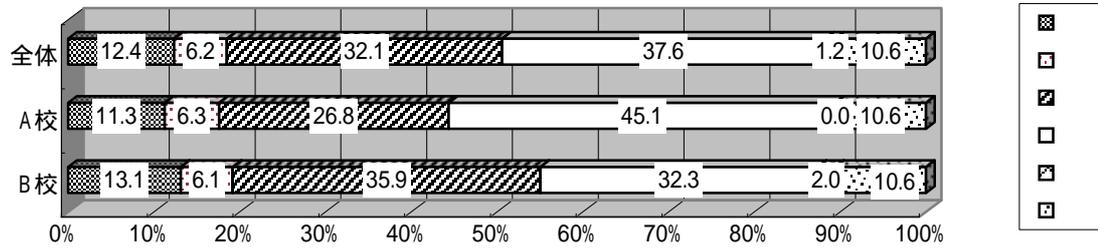
(2) あなたは今の学校に入学してよかったと思いますか。次のうちからあてはまるものを1つだけ選んでください。

- そう思う
 まあそう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 わからない



問2 あなたの卒業後の進路希望についてお尋ねします。卒業後の進路希望について、1つだけ選んでください。

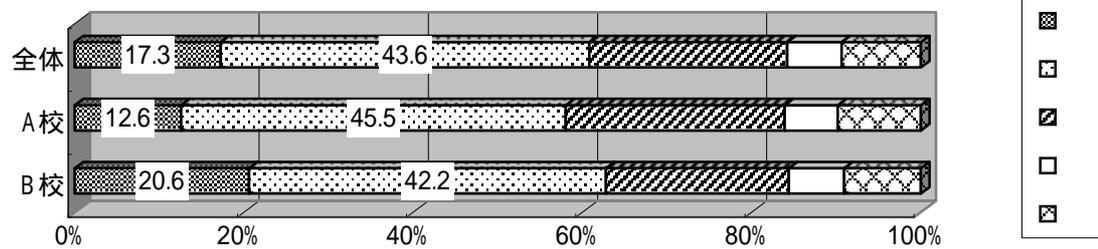
4年制大学に進学 短大に進学 専門学校に進学 就職
 その他 まだ決めていない



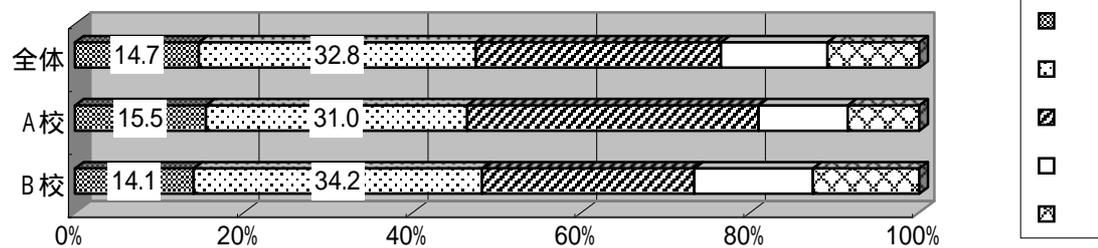
問3 あなたの学校についてお尋ねします。あなたは次の事項についてそれぞれどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない

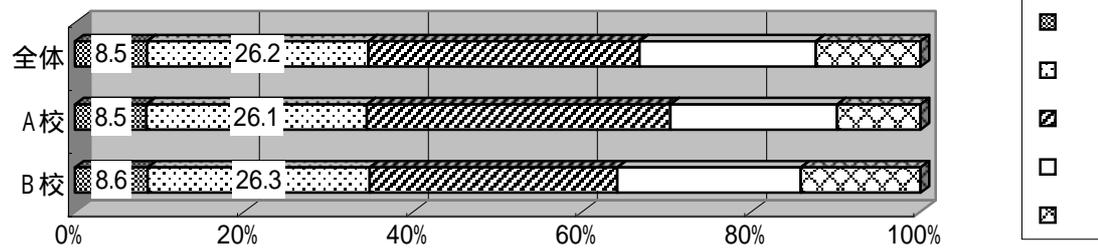
(1) 自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えることができる。



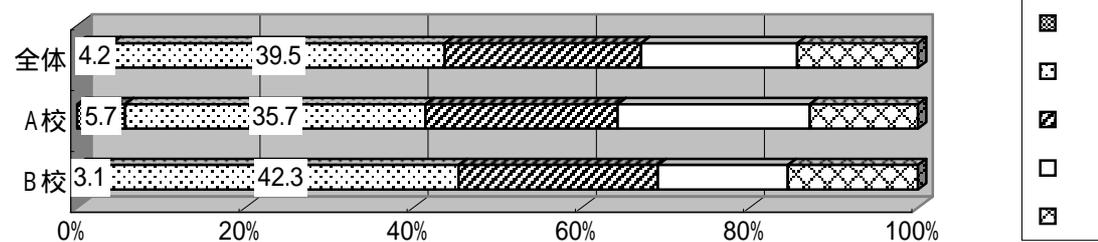
(2) 地域の人達と一緒に学習や行事等を行うことができる。



(3) 中学生とたくさん交流できる。



(4) 中学校の先生からも話を聞いたり、教えてもらうことができる。(高校1年生のみ)



問4 連携している中学校から連携している高等学校への入試は、作文と面接による連携型入学者選抜が行われています。連携型入学者選抜を受けて入学した方にお尋ねします。

- (1) 作文と面接による連携型入学者選抜のよい点はどのような点ですか。
 - ・ 気軽になれて、自分を引き出せる。
 - ・ 学力だけで判断するのではなく、その人の個性、人柄を見ることができる。
 - ・ 自分の考えなどをアピールする機会が多いこと。
 - ・ 作文・面接(学力以外)で自分の気持ち(入学の意志)を表現できる。
 - ・ 自分のペースで勉強できる。ゆとりを持って受検できる。
- (2) 作文と面接による高校入試(連携型入学者選抜)のよくない点はどのような点だと思いますか。
 - ・ 連携だからという安心感があり、多少なりとも気がゆるんでしまう。
 - ・ 自分の学力が分からない。
 - ・ 目標が持てずに勉強しなくなる。

問5 あなたの学校は、中学校と高等学校が6年間一貫した教育を行う中高一貫教育校です。

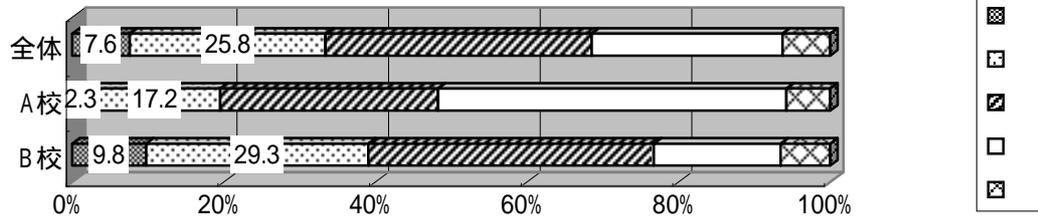
- (1) あなたの学校の中高一貫教育としてのよい点はどのような点だと思いますか。
 - 知っている人が多く入学しているので安心できる。
 - TTで授業をしたりするので、分からない所などを聞ける。
 - 高校という所を早く理解でき、なじみやすくなる。
 - 中学校の先生にも指導してもらえるので、また違った考えも得られる。
 - 簡単な入学者選抜なので、その分違った勉強ができる。
 - 中学校の先生や生徒と交流ができる。
 - 中学校時代から知っている人が多く安心できる。
 - 簡便な入学者選抜で、進学しやすい。
- (2) あなたの学校の中高一貫教育として改善してほしい点はどのような点ですか。
 - 中学生と高校生がもっと交流できればいい。
 - 中学校とあまり交流していないので、もっと交流する機会を増やして欲しい。

< 中学3年生対象 >

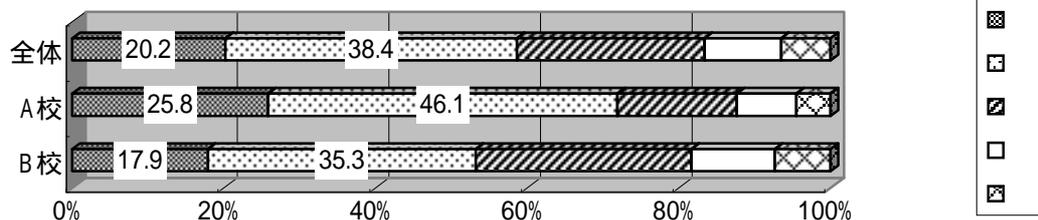
問6 あなたの学校についてお尋ねします。あなたは、次の事項についてそれぞれどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない

(1) 高校生とたくさん交流できる。



(2) 高校の先生からも話を聞いたり、教えてもらうことができる。



問7 あなたの学校は、中学校と高校が6年間一貫した教育を行う中高一貫教育校です。

(1) あなたの学校の中高一貫教育としてよい点はどのような点ですか。

- ・ 高校の先生から学校の様子を教えてもらえる。
- ・ TTで中学校と高校の先生が二人で丁寧に指導してくれる。
- ・ 先輩や同級生に知っている人が多くなり、高校であまり緊張せずに楽しく過ごせる。
- ・ 受験のことを気にせずに勉強できる。
- ・ 同じ中学校からたくさん進学するので安心。
- ・ 文化祭などで高校と交流がある。
- ・ 6年間じっくりと過ごすことができる。

(2) あなたの学校の中高一貫教育として改善して欲しいところはどのような点ですか。

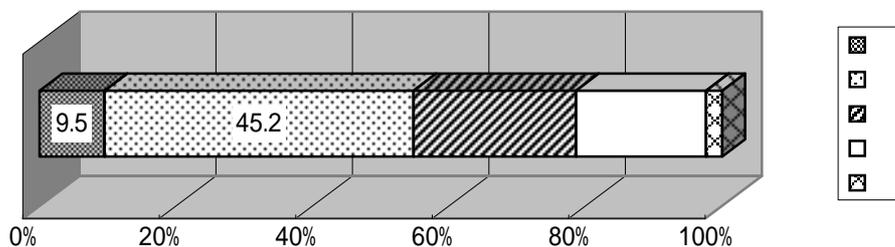
- ・ いろいろな教科の高校の先生にもっと授業に来てほしい。
- ・ 高校生との交流を増やしてほしい。
- ・ 部活動でも交流を深めたい。
- ・ 地域の人との交流を深める。

<教職員対象>

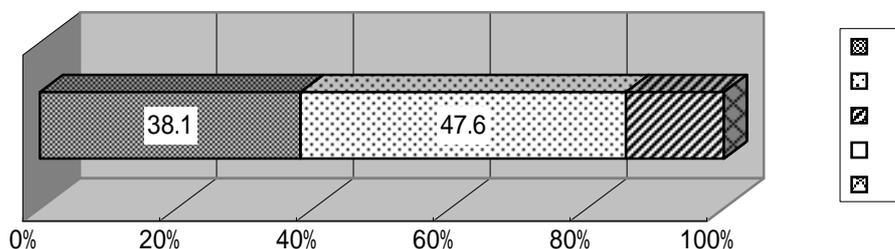
問8 あなたの学校の取組についてお尋ねします。あなたは、次の事項についてそれぞれどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない

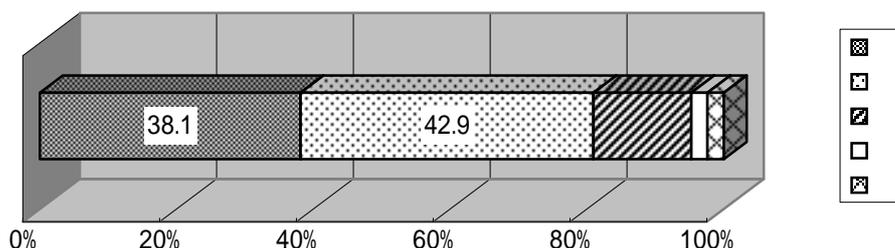
(1) 6年間を通した計画的・継続的な教育指導を計画している。



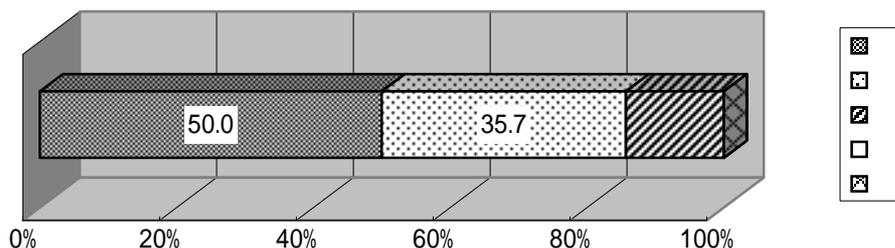
(2) 生徒に自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えさせている。



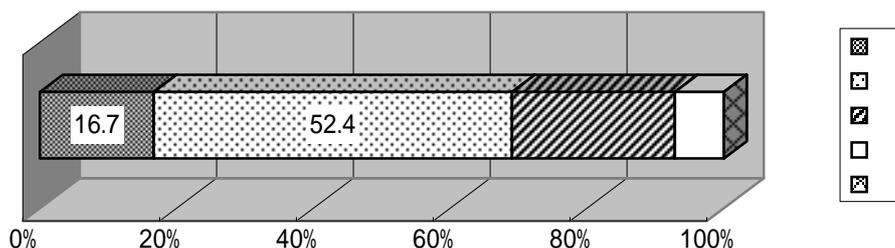
(3) 地域と連携して、その教育力を活用した教育を行っている。



(4) 中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供している。

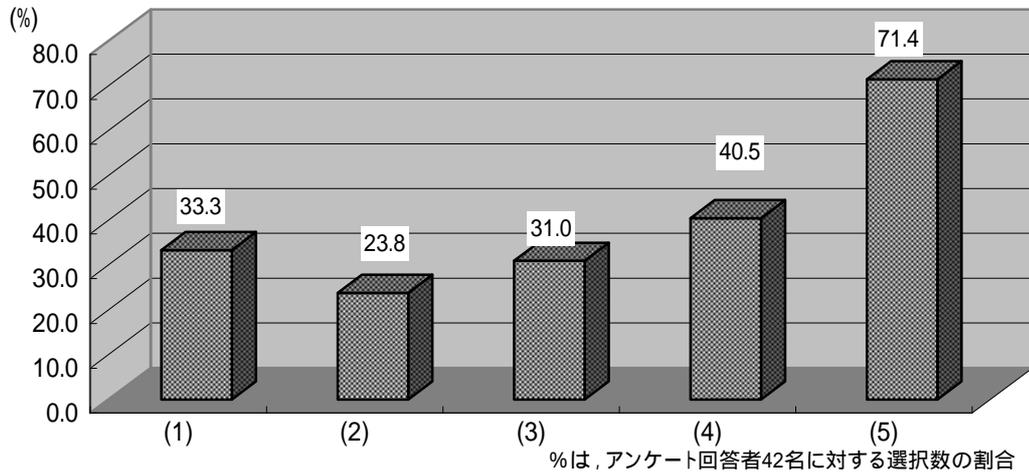


(5) 中学校の教員と高等学校の教員の意思疎通を図っている。



問9 問8の(1)～(5)のうち、中高一貫教育校に勤務しているあなたにとって重要であると思われるものを3つ以内選んでください。

- (1) 6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を計画している。
- (2) 生徒に自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えさせている。
- (3) 地域と連携して、その教育力を活用した教育を行っている。
- (4) 中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供している。
- (5) 中学校の教員と高等学校の教員の意味疎通を図っている。



問10 中高一貫教育校の制度についてお尋ねします。

連携型中高一貫教育校は、生徒にとって良い制度だと思いますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選んでください。

- そう思う
 まあそう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 わからない

